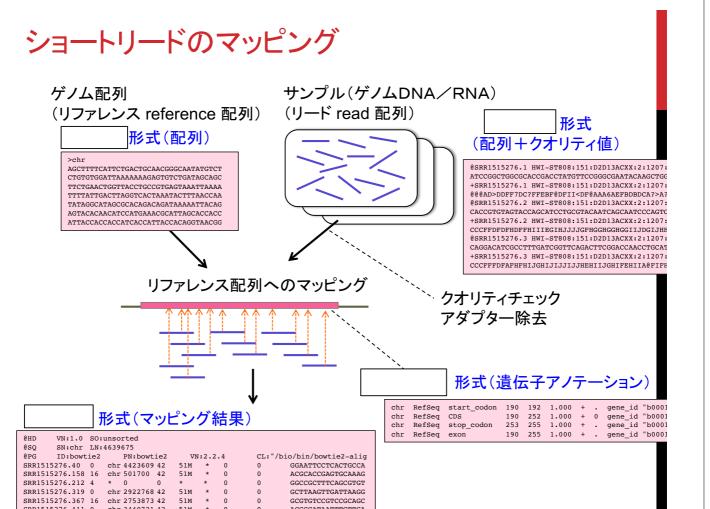
# NGS 基本フォーマットとツール 復習と補足

基礎生物学研究所 ゲノムインフォマティクストレーニングコース

内山 郁夫 (uchiyama@nibb.ac.jp)



# 復習:cutadaptによる アダプターの除去

実習用ディレクトリ ~/data/IU

#### 入力

- リード配列(FASTQ 形式; paired-end) etec\_1.fq etec 2.fq
- アダプター配列 (それぞれを3'端から除去)

Adapter1: AGATCGGAAGAGCGGTT Adapter2: AGATCGGAAGAGCGTCG

◆ **アダプター除去の実行** 除去後のデータ(FASTQ形式)は etec\_1.cut.fq, etec\_2.cut.fqとする)

\$ cutadapt	

# 復習:cutadaptによる アダプターの除去

実習用ディレクトリ ~/data/IU

#### 入力

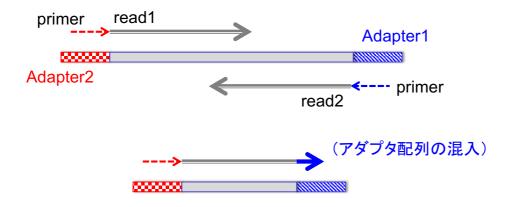
- リード配列(FASTQ 形式; paired-end) etec\_1.fq etec\_2.fq
- アダプター配列 (それぞれを3'端から除去)

Adapter1: AGATCGGAAGAGCGGTT

Adapter2: AGATCGGAAGAGCGTCG

- ◆ **アダプター配列除去の実行** 除去後のデータ(FASTQ形式)は etec\_1.cut.fq, etec\_2.cut.fqとする。
- \$ cutadapt AGATCGGAAGAGCGTT AGATCGGAAGAGCGTCG
  etec\_1.cut.fq etec\_2.cut.fq
  etec 1.fq etec 2.fq

### Illuminaにおけるアダプタ一配列



Adapter1: <u>AGATCGGAAGAGC</u>ACACGTCTGAACTCCAGTCAC

Adapter2: AGATCGGAAGAGCGTCGTGTAGGGAAAGAGTGTA

cutadapt -a (-A) オプションでは、指定した配列とマッチした箇所以降の3'側を切り捨てるので、アダプタ配列は全長を指定しなくてもよい。

# cutadapt その他のオプション

- -q [5' cutoff,] 3' cutoff (例: -q 20)
  - クオリティ値が指定したカットオフより低い塩基を3'端から除く(カンマ区切りでカットオフを2つ指定した場合は5'端からも除く)
- **-m** *min length* (例:-m 30)
  - アダプター除去後の配列長が指定した長さ以下になったら配列全体を 捨てる。
  - ペアエンドの場合、ペアのどちらかが捨てられる場合は両方を捨てる。→2つのファイルで対応する配列の出現順が揃うようにする。
- -O overlap\_length (例: -O 5)
  - アダプターとリードとの間で、マッチしたと見なす最低のオーバーラップ 長を指定。デフォルトは3。



### 復習:bowtie2 用インデックスの作成

実習用ディレクトリ ~/data/IU 入力

● ゲノムデータ(FASTA形式) eco o139.fa 腸管毒素原性大腸菌(ETEC) O139:H28のゲノム配列

<b>♦</b>	▶ bowtie2用インデックスの作成(インデックス名は etec)			
\$	bowtie2-build			

# 復習:bowtie2の実行 (paired-end)

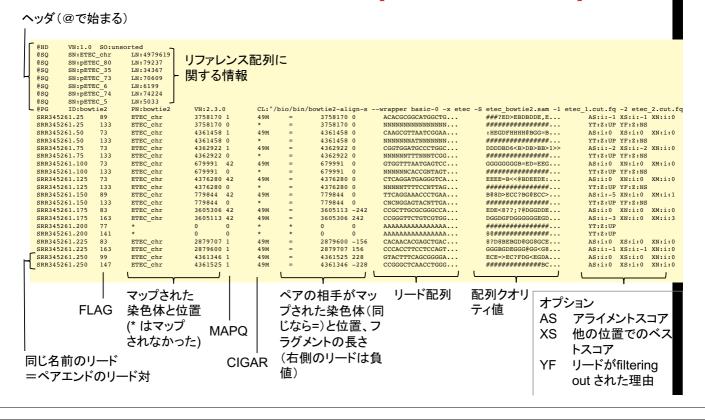
実習用ディレクトリ ~/data/IU

入力

- リード配列(FASTQ 形式; paired-end; アダプターを除去したもの) etec\_1.cut.fq etec\_2.cut.fq
- リファレンス配列のインデックス名 etec (先ほど作ったもの)

<b>♦</b>	bowtie2	こよるマッピンク	ずの実行 (出力:ef	tec_bowtie2.sam)
\$	bowtie2	etec	etec_1.cut.fc	etec_2.cut.fq
	_	etec_b	owtie2.sam	

# マッピング結果ファイル(SAMファイル)



### 復習:SAMからBAMへの変換

実習用ディレクトリ ~/data/IU

入力

● SAMファイル (さきほどbowtie2によって作成されたもの) etec\_bowtie2.sam

◆ SAMからBAMへ図	を換する(出力ファイル名:etec_bowtie2.bam)
\$ samtools [	etec_bowtie2.sam etec_bowtie2.bam
	ルをヘッダ付きでSAMに変換してlessで表示する etec_bowtie2.bam less

### 復習:BAMファイルのインデックスづけと検索

実習用ディレクトリ ~/data/IU

入力

- BAMファイル(さきほどSAMからの変換によって作成されたもの) etec\_bowtie2.bam
- ◆ リファレンス配列上の位置の順にソートする (出力ファイル:etec\_bowtie2\_sorted.bam)

\$ samtools	et	ec_bowtie2.bam		
		etec_bowtie2_sorted.bam		

- ◆ ソートされたBAMファイルに対してインデックスを作成する
- \$ samtools | etec\_bowtie2\_sorted.bam
- ◆ インデックスを使って、リファレンスの染色体配列(染色体名:ETEC\_chr)の10000-12000 の範囲にマッピングされた結果のみを表示する

é	samtools	etec_	_bowtie2_	_sorted.bam
	'			

### SAM/BAM フォーマット補足

- Bowtie2のデフォルトオプションでマッピングした結果のSAM/BAMファイルは、もとのFASTQファイルに含まれている各リードの配列とクオリティデータをすべて含んでいる。以下のコマンドでSAM/BAMファイルからFASTQファイルを作成できる。
- \$ samtools fastq etec\_bowtie2.bam -1 r1.fq -2 r2.fq
- リファレンス配列を参照して、配列を記録する代わりにリファレンス上の位置 とアライメント情報のみを記録することによって、さらに圧縮率を高めたバイ ナリ形式としてCRAM形式がある。

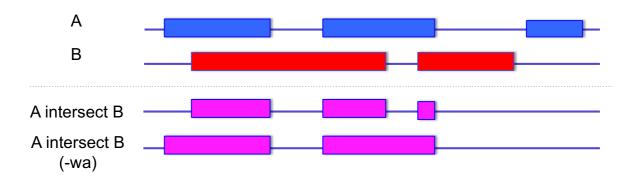
#### **Bedtools**

● BED, GFF(GTF), BAM 形式で記述された「ゲノム上の領域の集合」 に対して様々な操作を行うツールを集めたもの。

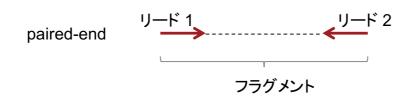
例) intersection

BAM形式のマッピング結果(etec\_bowtie2.bam)の中で、コード領域 (eco\_o130\_cds.gff) とオーバーラップしているリードを抽出して、BED形式で表示する。

\$ bedtools intersect -abam etec\_bowtie2.bam
-b eco\_o130\_cds.gff -wa -bed |less



# Bowtie2のオプション1ペアエンドリード対の検索



- -I int フラグメント長の最小値(default: 0)
- -x int フラグメント長の最大値(default: 500)
- --fr/--rf/--ff リード1とリード2の相対的な向き(default:fr)



● 条件を満たさない(discordant)リード対もデフォルトでは出力される。その際、2カラム目(FLAG)の2ビット目(ペアが正しくアラインされたか?)に0がセットされる。

# フラグ(FLAG)

- True/Falseの2状態を1/0で表した変数。複数のフラグをまとめて、2進数の数値で表現される。
- フラグ値は10進数で表示されるが、2進数に変換することで解釈される。

#### FLAG値

# unix コマンドによる 10進数→2進数の変換

% echo 'obase=2;83' | bc

# samtools を使ったフラグの解釈

% samtools flags 83

0x53 83 PAIRED, PROPER\_PAIR, REVERSE, READ1

# 各フラグの説明を表示

% samtools flags

### Paired end readでのFLAG値

10100011 163 01010011 83 Read2 --- Read1 01100011 99 10010011 147 Read1 -Read2 read 🔙 ペア相手は逆鎖にマップされた ペア相手がマップされていない「 両方適切にマップされている 自分がマップされていない「 2進数表記 samファイルの記載は 逆鎖にマップされた Read1の配列である 10進数表記 通常のpaired end segで consistentにアラインしていれば この4通りになる 片方しかアラインしてない場合 どっちもアラインしていない場合 

# Samtoolsを用いた フラグによるフィルタリング

● samtools view –f <u>フラグ値</u> <u>BAMファイル</u>

指定した<u>フラグ値</u>中で1であるフラグが、<u>BAMファイル</u>中のフラグ値でもすべて1になっている行のみを抜き出す。

例) ペアリードでかつ両方が適切にアラインされている行のみを抜き出す

% samtools view -f 3 etec bowtie2 sorted.bam

3は2進数で 11 だから、1番目と2番目のフラグが1である行を抜き出す(それ以外のフラグは無視する)。

● samtools view -F フラグ値 BAMファイル

指定した<u>フラグ値</u>中で1であるフラグが、<u>BAMファイル</u>中のフラグ値ではすべて0になっている行のみを抜き出す。

例) ペアリードの両方が適切にアラインされていない行のみを抜き出す

% samtools view -F 2 etec\_bowtie2\_sorted.bam 2番目のフラグが0である行を抜き出す。

# Bowtie2のオプション2 アライメント出力のモード

● 一般に、1つのリードは複数の箇所にマップされる。

スコア=ミスマッチに 対するペナルティ

E: -1

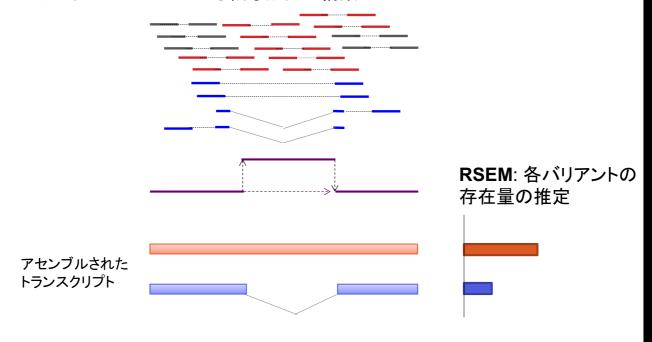
A: -2 B: 0 C: -3 D: 0

● default (best one mode) 条件を満たすアライメントを検索し、最高スコアのものを1つ出力 (ただし、検索は完全でないので、最高スコアを取りこぼす可能性はある) 上記の例では、BまたはD(どちらかがランダムに選ばれる)

- -k <int>
  条件を満たすアライメントを、見つかった順に指定した数だけ出力上記の例で、-k 2 のとき、左から順に見つかるとすると、AとB(実際には位置の順に見つかるわけではない)
- -a条件を満たすアライメントをすべて出力 上記の例では、A,B,C,D,E
- -kや-aを指定したとき、最高スコアでないアライメントには9番目のフラグ (secondary alignment)に1がセットされる

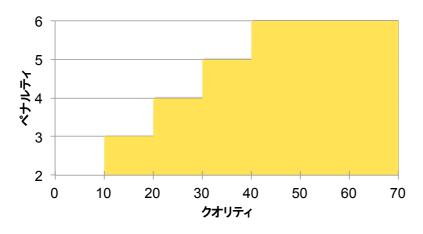
### (参考)デノボ・アセンブルによるRNA-Seg解析

デノボ・アセンブルによる転写配列の構築



# (参考)Bowttie2における アライメントスコア

- マッチは0で、ミスマッチにマイナスのペナルティ(最高スコアが0点)
- ミスマッチペナルティは、クオリティ値に応じて -2 から -6 の値をとる(下図)
- あいまい塩基(N)のペナルティは -1
- ギャップペナルティは、ギャップの長さ n に対して (5 + 3n)
- スコアのカットオフは、長さLに対して -0.6(L+1)



# マッピングクオリティ(MAPQ)

● マッピングクオリティ(MAPQ)値は以下の式で計算される。

 $MAPQ = -10\log_{10}(P_e)$ 

ただし、P。はリードが間違った位置にマップされている確率の推定値。

- MAPQは、リードがその位置にどの程度ユニークにマップされたかを示す 指標であり、その位置でのアライメントスコアが、他のすべての位置におけるスコアよりずっと大きいときに大きくなる。
- Bowtie2のデフォルトでは同じスコアのアライメントが複数の位置で得られた場合、ランダムに一つの位置を出力し、MAPQに低い値を設定する。
- MAPQが低いアライメントの位置は信用できないので、下流の解析の際には捨てた方が良い場合もある。

# Samtoolsを用いた MAPQによるフィルタリング

- samtools view -q <u>閾値</u> <u>BAMファイル名</u> MAPQの値が閾値より小さい行を除く
- 例)MAPQが20以上の行のみを出力
- \$ samtools view -q 20 etec bowtie2.bam

# Bowtie2のオプション3 アライメントのモード

● --end-to-end リード配列全長に渡るアライメント(default)

● --local リード配列のうち、類似度の高い一部の領域のみを抜き出してアライン したもの

Read: ACGGTTGCGTTAA-TCCGCCACG
| | | | | | | | | | | | | | | |
Reference: TAACTTGCGTTAAATCCGCCTGG

## CIGAR文字列

- リードとリファレンス配列とのアライメントの詳細を表す。
- ギャップなしでアラインされている場合、nM (nはリード配列の長さ)となる。
- ギャップが入っている場合、nD(欠失)またはnI(挿入) (nは挿入・欠失の 長さ)が入る。

#### 5M2D4M1I5M

● ローカルアライメントのとき、両端の除かれる部分は nsで、またTopHatなど のスプライシングを考慮するアライメントにおいて、イントロンとしてスキップ されるリファレンス配列上の領域は nNで表される。

#### 5S4M1I5M

ref ACGGCTGATTA-GCATG
::::::::::
read taaccATTAGGCTTG

### インデックスを使った高速検索 ハッシュテーブル

ゲノム配列

ACACGTTACGGT....

リード配列 **CGTTGCA** 

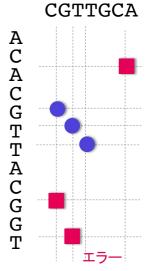
#### (1)インデックス作成

ハッシュテーブル 各2-merの出現位置を記録

2-mer positions AC 1,3,8 CA 2 CG 4,9 GG 10 GТ 5,11 ΤA TT

② インデックスを使った 初期検索(seed検索)

**CGTTGCA** 



CG 4,9

③ 見つかったseedを 延長してアライメント

ACACGTTACGGT.... **CGTTGCA** 

### インデックスを使った高速検索

### 接尾辞配列(suffix array)

#### **ACACGTTACGGT**

#### 接尾辞

- 1 ACACGTTACGGT
- 2 CACGTTACGGT
- 3 **ACGTTACGGT**
- 4 **CGTTACGGT**
- 5 **GTTACGGT**
- TTACGGT
- 7 TACGGT
- 8 ACGGT
- CGGT
- 10 GGT
- 11 GT
- 12 T



ACGGT ACGTTACGGT CACGTTACGGT CGGT CGTTACGGT 10 GGT 11 GT

ACACGTTACGGT

- 5 GTTACGGT
- 12 T
- 7 TACGGT
- TTACGGT

接尾辞

配列

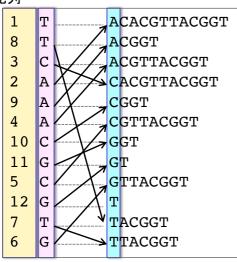
### Burrows-Wheeler 変換 (BWT)に基づく インデックス(FM-Index)

**ACACGTTACGGT** 



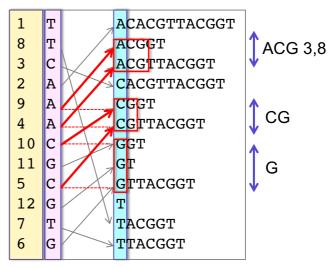
TTCAAACGCGTG

接尾辞 配列 BWT



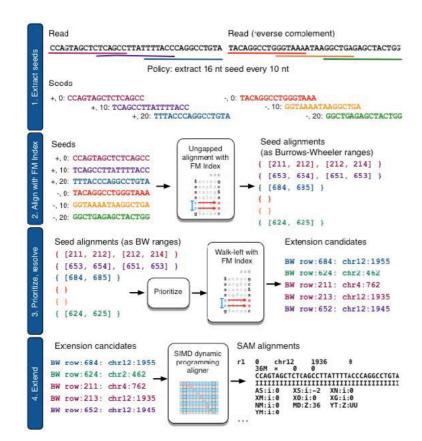
矢印(LF mapping)を辿って元の配列を 再構築できる(逆変換)。

#### 文字列 ACG の検索



メモリ使用量、計算量とも効率のよい検索 の実現

### Bowtie2 アルゴリズムの詳細



#### 1. Seed 配列の抽出

各リード配列およびその相補配列から i 塩基ごとに L 塩基の配列を抽出してseed配列とする(図ではi=10, L=16)。

#### 2. FM index を用いた検索

各seed配列がゲノム上に出現する位置がBW rangeとして得られる。最大1つのミスマッチを考慮した検索が可能。

#### 3. ヒットの優先付け、位置の取得

BW rangeの幅が小さいヒットに高い優先度をつけて、ランダムに候補をピックアップし、ゲノム上の位置を取得。

#### 4. アライメントの計算

得られた位置の周辺で、ギャップ入り のアライメントスコアを計算。これを各 候補位置について繰り返して、最高ス コアを与えるゲノム上の位置を出力。

### Bowtie2のオプション4 検索の精度と速度に関するオプション

- -N int seed 検索時にミスマッチを許す数(0 or 1)
- -L int seed の長さ
- -i func seed をとる間隔(リード長を基に決める式を指定)
- -D int 最高スコアが更新されないときアライメント計算を打ち切るまでの回数
- -R int リードが高反復のseedをもつときにre-seedを行う最大回数

上記のオプションを同時に設定するpreset optionがある。高速(低感度)→高感度(低速)の順に4段階のオプションが用意されている。

- end-to-endモードの場合 (default: sensitive)
  --very-fast /--fast /--sensitive/--very-sensitive
- localモードの場合 (default: sensitive-local)
  --very-fast-local /--fast-local /--sensitive-local /-very-sensitive-local